

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年10月30日

No.4

**組合：組合員の生活実態からすれば2.5ヶ月は当然の要求である！**  
**会社：組合の主張は重く受け止めて経営陣に伝える**

## ～2014年度 年末手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日10時00分より第3回年末手当交渉を行ない、要求の根拠を明らかにし、この間の経営姿勢をたどりました。

### 【要求の根拠】

- ①可処分所得の減少し組合員の生活は厳しい状況であり、将来にわたって組合員が生活に希望を持ち、安定した生活を確保するためにも2.5ヶ月の要求は当然である。
- ②鉄道事業部門の黒字化に向けて我々も汗をながす決断をした。だからこそこれまで様々な提言を行なっている。真摯に向き合っている我々のモチベーション向上のためにも会社は期末手当で応える責務がある。
- ③度重なる自然災害や輸送障害にも、組合員は安定輸送に努めてきた。東海道線の寸断で大きな減収となったが、組合員の努力によって最小限に食い止められた。職場で奮闘する組合員の努力に対して見える形で報いるべきである。
- ④会社の説明を聞く限り、支払い能力はあると判断する。災害減収を組合員に転嫁することなく、会社の誠意を見せるべきである。

### 【要求の根拠に対する会社の考え方】

- ①東海道本線が寸断された中、組合員の努力に改めて感謝申し上げる。黒字化に向けて会社も汗をかくことは認識しており、貴組合の協力無しに黒字化の実現は出来ないと考えている。
- ②先の災害等により経営状況は厳しいものがある。トップセールスをはじめとした営業施策や挽回輸送を行ない、収入確保に努める。
- ③これまで、様々な指摘をいただいていることに対して、具体策について一部では講じている。ただし、その指摘の全てに十分に対応出来ているとは考えていない。組合の主張は経営陣に伝える。

会社の考え方に対し、中央本部は以下のように指摘しました。

- ①組合からは挽回輸送を全力で支えることを表明したが、具体策を未だに考えていないことは問題である。「労使で汗をかく」との表明は経営陣の総意なのか。
- ②組合員は日々努力を求められる一方、報いが無いことに限界を感じている。経営姿勢に失望感を感じた若年社員、とりわけ第1線で働く組合員が相次いで退職している。そのことに経営陣は危機感を持つべきだ。
- ③経営陣の意識がコスト削減一辺倒から何ら変わっていないことは問題である。トップセールス自体は否定しないが各部門の幹部は自分の専門の中で、収入拡大や事故防止、技術継承、要員対策で汗をかくべきである。
- ④貨物会社の将来を左右する時期であることを改めて認識し、これまでと同じような「出来ない理由」を並べた回答は認められないことを主張し、交渉を終了しました。

組合員のみなさん！中央本部は挽回輸送に全力を挙げている組合員、親元を離れて低賃金の中で頑張っている組合員の思いを受け止め次回交渉にて会社に対して「労使で汗をかく」ことを認識しているという言葉が実感できるように、満額獲得に向け全力で取り組むことを明らかにして、第3回交渉報告とします。

次回、第4回交渉は、11月10日(月)です。